

平成23年度 公共下水道事業会計決算の概要について

1 総 括 事 項

平成23年度の大分市公共下水道事業会計決算につきましては、事業会計に移行後、2回目の決算となりますが、収益的収支で約7億9千万円の純損失となりましたものの、資本的収支を合わせた総合収支におきましては、約4億6千万円の内部留保資金繰越額を確保したところであります。

本市の下水道事業は、昭和41年に本格的に事業着手して以来、積極的に事業を推進してまいりました結果、平成23年度末の普及率は58.6パーセントとなっております。今後、さらに普及率の向上に努める必要があります一方で、既存施設の老朽化に伴う維持管理経費の増大も見込まれますことから、施設の効率的な維持管理、長寿命化計画に基づく計画的な改築更新、さらには耐震化なども喫緊の課題となっております。

下水道事業を取り巻く環境は、大変厳しいものではございますが、市民の快適な生活環境を確保するとともに大分の水環境の保全に向け、持続可能な事業構築ができるよう、使用料収入の確保はもとより業務執行方式の見直しなどを通じた早期の経営健全化に向け、効果的かつ効果的な事業経営に努めてまいりたいと考えております。

(1) 業 務 状 況

(単位：世帯、人、%、m³)

項 目	平成23年度	平成22年度	増 減	備 考
処 理 区 域 内 世 帯	121,298	118,011	3,287	
処 理 区 域 内 人 口	277,227	272,325	4,902	
普 及 率	58.6	57.7	0.9	処理人口277,227÷行政人口472,942 (外国人を除く)
年 間 処 理 水 量	42,509,673	39,476,394	3,033,279	
年 間 有 収 水 量	31,551,575	31,386,573	165,002	
有 収 率	74.2	79.5	△ 5.3	年間有収水量 / 年間処理水量

(2) 財 務 状 況

(単位：千円)

項 目	平成23年度	備 考
収益的収支	事業収益(収入)(A)	7,554,941 ・下水道使用料収入 4,581,714 ・一般会計からの繰入金2,960,273 (うち、基準内2,250,259 基準外710,014)
	事業費(支出)(B)	8,201,334 ・減価償却費3,322,318 ・企業債利息 2,364,013
	収支差損(C)(A-B)	646,393
	純損失(消費税抜き)	787,681
資本的収支	収入(D)	6,800,636 ・企業債 3,877,600 ・国庫補助金1,289,192 ・一般会計からの繰入金1,460,632 (全額基準内)
	支出(E)	9,318,796 ・建設改良費3,363,382 ・企業債元金償還金 5,934,906
	収支(F)(D-E)	△ 2,518,160
総合収支	内部留保資金(Fの補てん財源)	2,980,305
	内部留保資金繰越額(補てん後の残高)	462,145
企業債残高	101,659,593	平成23年度：借入額3,877,600 償還額：5,934,906 平成H21末残高105,756,191、H22末残高103,716,899

2 事業執行状況について

(1) 収益的収支の状況

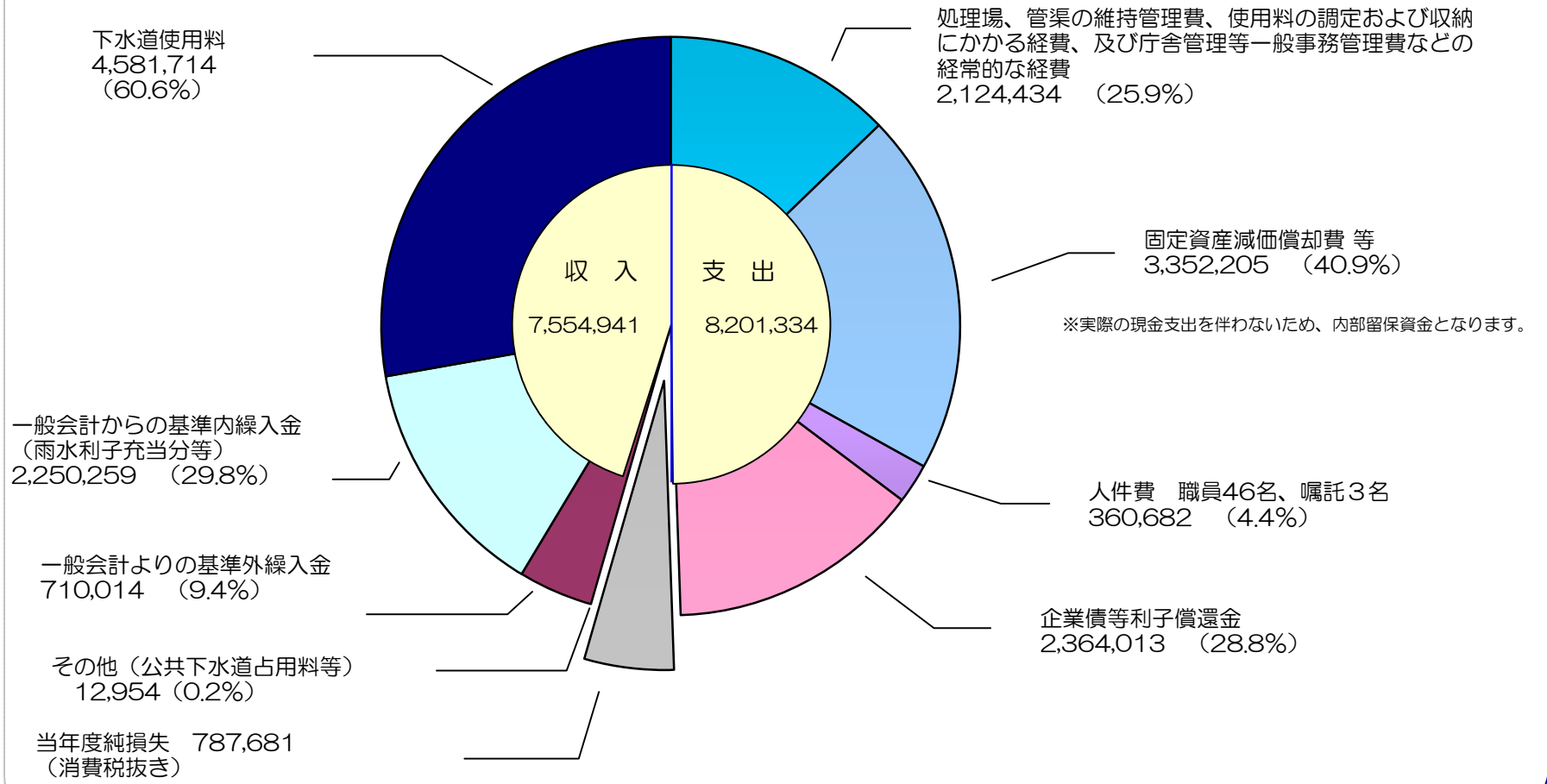
下水道使用料収入及び下水道施設の維持管理、人件費等公共下水道事業管理運営経費全般の状況を示します。

(単位：千円)

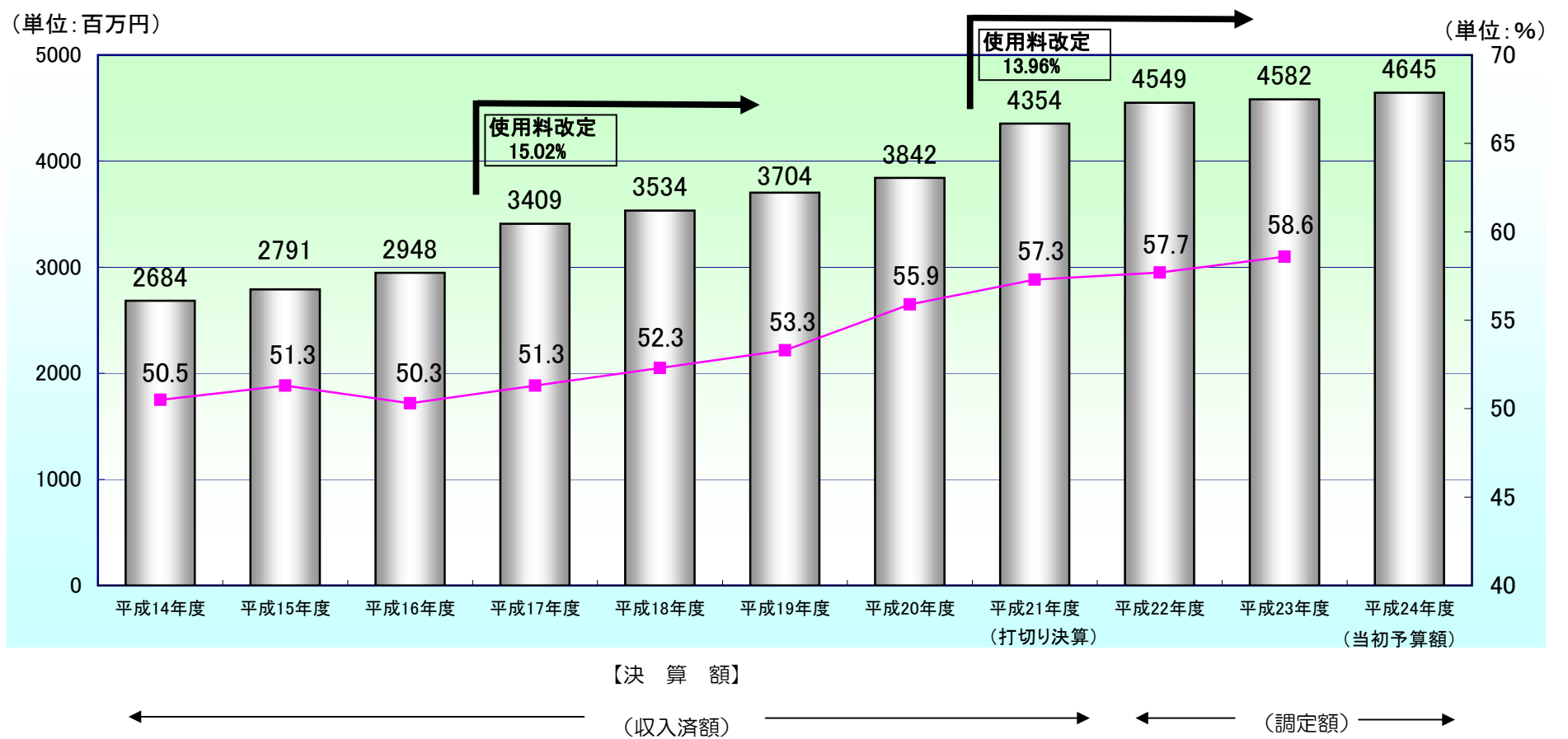
項 目	平成23年度	備 考
事業収益(収入)	7,554,941	
うち下水道使用料	4,581,714	(P2 下水道使用料収入及び普及率の推移参照)
うち一般会計繰入金	2,960,273	<基準内繰入>雨水維持管理費190,075、雨水減価償却費976,704、雨水企業債償還利子681,318 その他402,162 (下水規制事務・水酸化促進・不明水処理・汚水企業債利子償還(普及特別、緊急下水道、臨時財政特別債)等) <基準外繰入>汚水企業債償還利子709,006、子ども手当等1,008
事業費(支出)	8,201,334	
純損失(消費税抜き)	787,681	

収益的収支

下水道使用料収入及び下水道施設の維持管理、人件費等公共下水道事業管理運営経費全般の状況を示します。



下水道使用料収入及び普及率の推移



※平成21年度は出納整理期間分を加えた数字で算出

(2) 資本的収支の状況

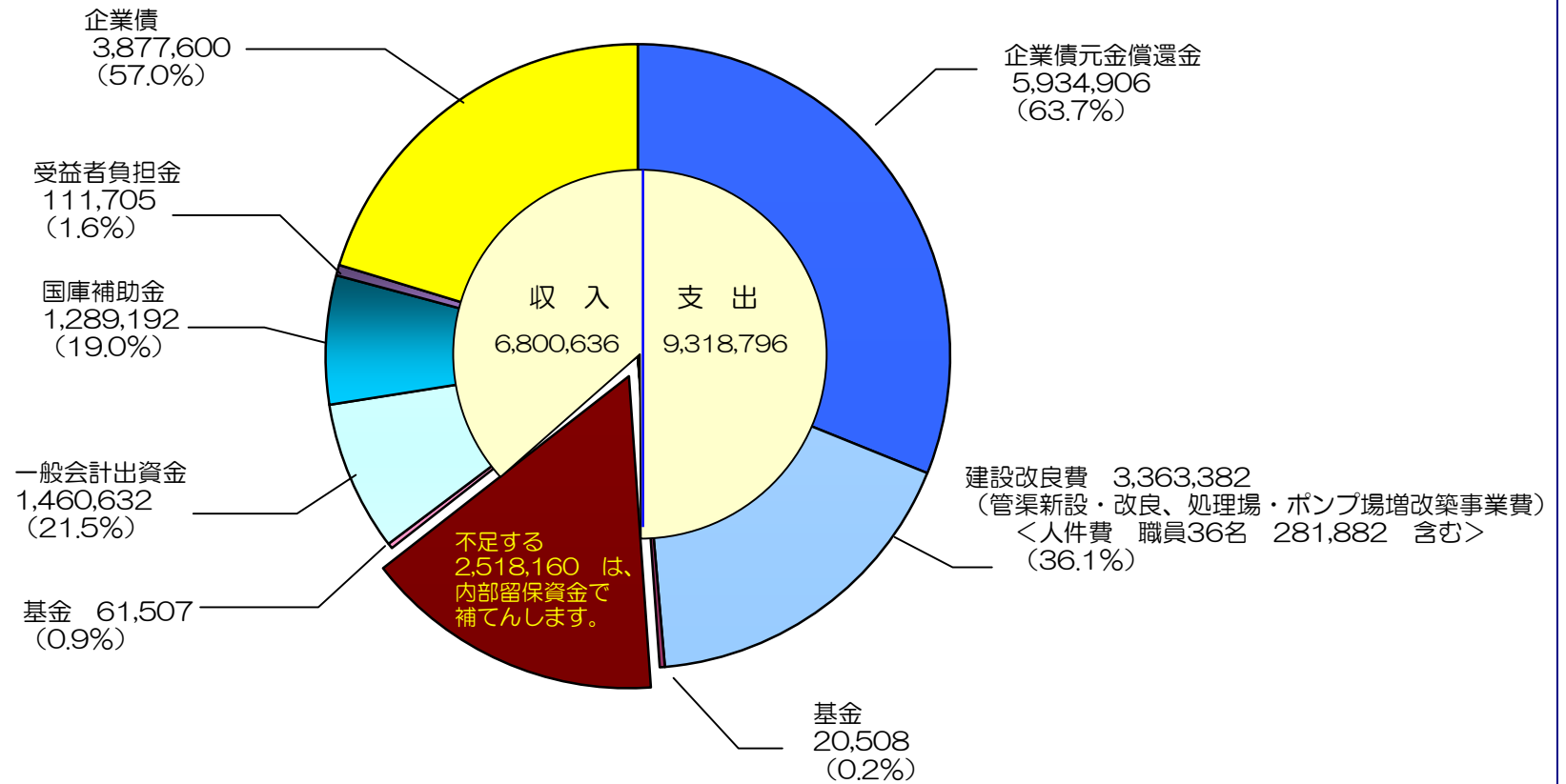
管渠及び処理場の新設、大規模改修・更新工事等建設改良事業に伴う収支及び企業債の借入、償還の状況等を示します。

(単位: 千円)

項目	平成23年度	備考
資本的収入 (A)	6,800,636	
資本的支出 (B)	9,318,796	企業債元金償還金 5,934,906
うち建設改良費	3,363,382	(人件費36名分281,882含む) 管渠建設費2,022,825、処理場建設費1,337,133、固定資産購入費3,424
資本的収支不足額 (C) (A-B)	△ 2,518,160	
※内部留保資金 (補てん財源) (D)	2,980,305	(P3内部留保資金の内訳参照)
内部留保資金繰越額 (E) (C+D)	462,145	平成24年度への内部留保資金繰越額

資本的収支

管渠及び処理場の新設、大規模改修・更新工事等建設改良事業に伴う収支及び企業債の借入、償還の状況等を示します。



※ 補填財源となる内部留保資金 (2,980,305) の内訳

(単位：千円)

当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	141,289	収益的収支で過払いとなる消費税を資本的収支の消費税で相殺するもの
過年度分損益勘定留保資金	358,546	平成22年度からの繰越資金
当年度分損益勘定留保資金	3,352,113	減価償却費・固定資産除却費など現金支出を伴わない費用（無形固定資産減価償却修正益92を差引く）
当年度純利益（損失）	△ 787,681	収益的収支より
翌年度繰越財源	△ 83,962	23→24年度の建設改良費の一般財源部分
補填財源使用可能額	2,980,305	

■ 主な建設改良事業実施状況 (単位：千円)

※額は人件費を除いたもの

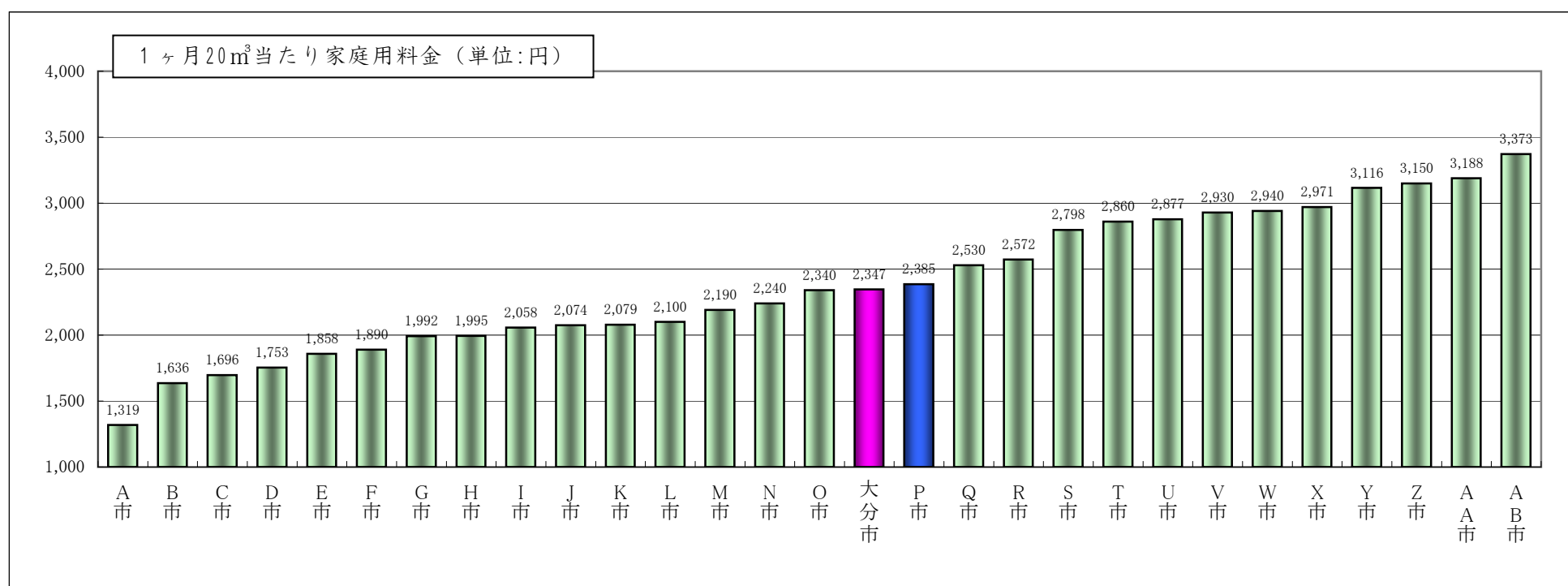
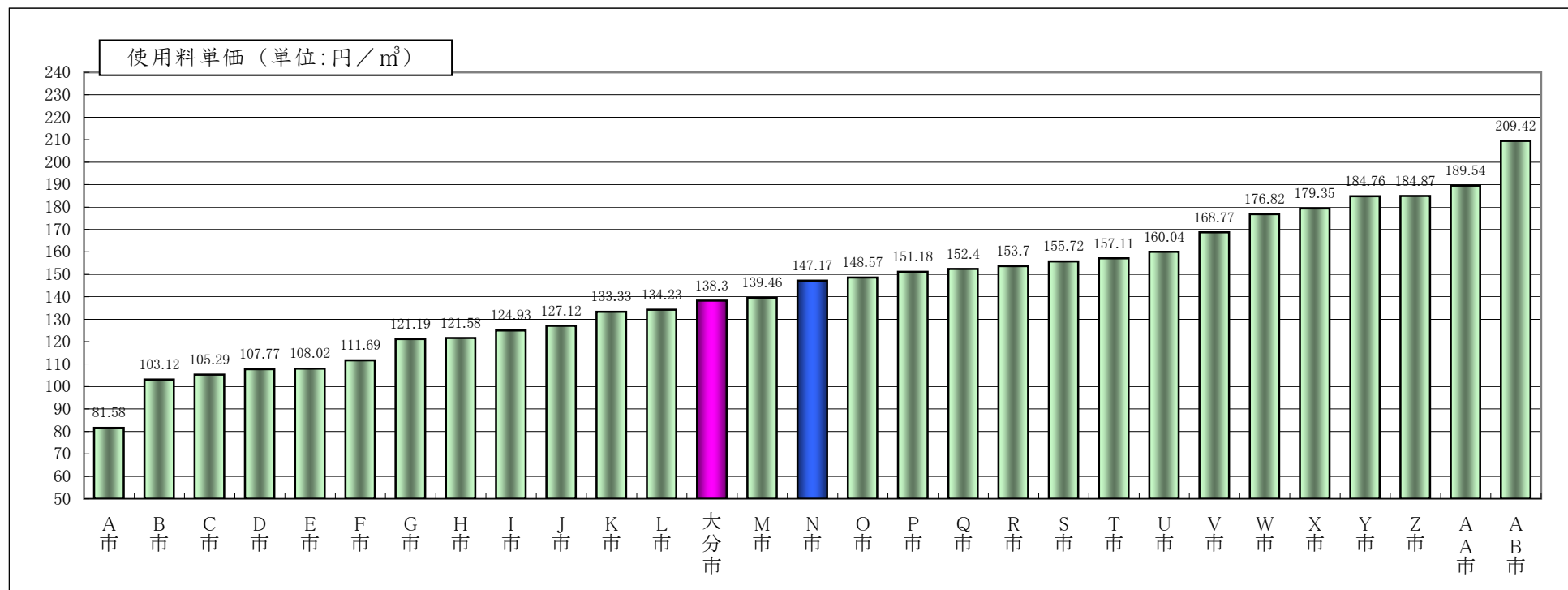
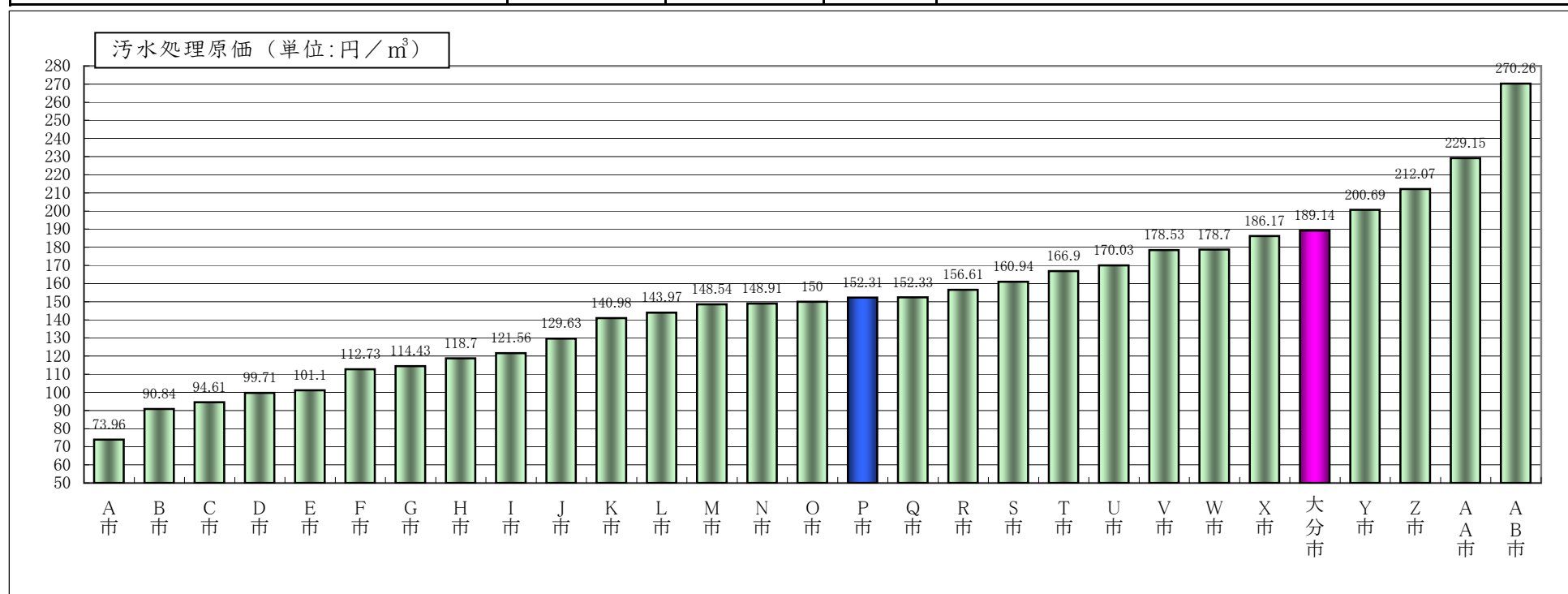
- 管渠整備事業 (公共・単独) 1,825,170
 - <中央処理区> 大道町1477号線汚水雨水施設工事
畑中3194号線汚水施設工事
大分駅周辺整備事業、浜町・芦崎・新川地区住環境整備事業に伴う管渠整備工事
 - <東部処理区> 皆春678-6号線雨水施設工事
森町1298-3-1号線汚水施設工事
マンホール蓋替え工事 (主に明野・向原・敷戸地区)
 - <植田処理区> 木ノ上6656号線汚水施設工事
寒田3233号線汚水施設工事
小野鶴宗方汚水幹線管内補修工事
 - <南部処理区> 中戸次1362号線汚水雨水施設工事
中戸次1293-2号線雨水施設工事
戸次本町まちづくり推進事業に伴う管渠整備工事
 - <大在処理区> 常行5374-1号線汚水施設工事
一木282-1号線汚水施設工事
三佐北地区住環境整備事業に伴う管渠整備工事
- 処理場及びポンプ場整備事業 (公共・単独) 1,252,906
皆春雨水排水ポンプ場整備工事 (土木・建築・機械・電気設備工事) ※H19～H23の継続工事、H24. 6月供用開始

※ 中核市は、平成24年4月1日現在 41市、比較については法適用の 29市としている。
 ※ グラフ中の青色の表示は、中核市 29市の平均の近似値の都市を示している。

3 経営指標等

(1) 料金体系等について

項目	大分市	中核市平均	大分市の順位	備考
汚水処理原価 (円 / m ³)	189.14	151.50	25	汚水処理費 ÷ 年間総有収水量
使用料単価 (円 / m ³)	138.30	144.04	13	使用料収入 ÷ 年間総有収水量
1ヶ月20m ³ 当たり家庭用料金 (円)	2,347	2,388	16	(税込額)



(2) 収益性・安定性について

項目	大分市	中核市平均	大分市の順位	備考
総収支比率 (%)	90.3	104.1	28	総収益と総費用を対比したもので、100%を超える場合は利益、100%未満は損失となる
経常収支比率 (%)	90.5	103.8	27	経常費用が経常収益によってどの程度まかなわれているかを示すもので、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表す
自己資本構成比率 (%)	55.73	56.17	11	総資本に占める自己資本の割合を示すもので、この比率が高いほど財務は健全であるとされている

